



令和4年度大学院教育学研究科説明会を開催します

大学院教育学研究科の説明会を開催します。新型コロナウイルス感染拡大防止のためにオンラインで開催されます。日程は以下のようになります。

- 第1回目：7月2日（金）
 心理教育実践専攻 17:00～18:00
 教職実践専攻 18:00～19:00
 第2回目：10月1日（金）
 心理教育実践専攻 17:00～18:00
 教職実践専攻 18:00～19:00

大学院は、学部4年間で修了後に進学する機関で、2年制の修士課程とその後の3年間の博士課程、または5年間の博士課程（2年間の博士前期課程と、3年間の博士後期課程で構成）がありますが、本教育学研究科は、2年間の専門職学位課程（教職実践専攻で、いわゆる「教職大学院」）と2年間の修士課程（心理教育実践専攻）で構成されています。

大学院は研究者養成と高度専門職業人養成の二つの機能を有しているわけですが、本研究科は、高度専門職業人養成を機能とし、専修免許状を有し、高度な教育（経営）実践力を有する教育専門職と、臨床心理士・公認心理師資格を有する高度な心理実践力を有する心理専門職を養成しています。

学部の4年間の教育だけでは、教育の世界も、心理の世界も、対応できないような状況となって

いることが背景にあります。問題は複雑化、高度化し、対応が難しくなっています。先進国では大学院進学が一般化して、修士号を持つ人がたくさん活躍していますし、博士号を持つ人も珍しくありません。ぜひあなたも大学院への進学を考えてみてください。



秋田大学大学院 教育学研究科 オンライン説明会

7月2日(金)
 ●心理教育実践専攻 17:00～18:00
 ●教職実践専攻 18:00～19:00
 ●専攻・コースの紹介 ●質疑応答・アンケート ●その他

修士課程
心理教育実践専攻
 ●心理教育実践コース

教職大学院(専門職学位課程)
教職実践専攻
 ●学校マネジメントコース
 ●カリキュラム・授業開発コース
 ●発達教育・特別支援教育コース

申込期間 5/17(月)～6/25(金)
 説明会はZoomにより行います。
 参加ご希望の方は、下記URLまたはQRコードから申込フォームにアクセスのうえお申し込みください。
 ZoomのID等はメールにてご連絡します。
<https://forms.office.com/r/kyCXRZGTM4>
 ●第2回説明会は10月1日（金）を予定しています。詳細は本研究科HPにてお知らせします。

令和4年度入試日程（予定） ●令和4年度学生募集要項の公表は7月上旬を予定しています。

第Ⅰ期	第Ⅱ期
出願期間 令和3年8/25(水)～9/1(水) 試験日 令和3年9/26(日) 合格発表 令和3年10/19(火)	令和3年12/3(金)～12/9(木) 学校マネジメントコースは12/14(火)まで 令和3年12/18(土) 令和4年1/18(火)

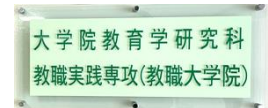
※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、入試日程や選抜方法の急な変更もあり得ます。その場合は、本研究科のホームページでお知らせします。

**お問い合わせ
資料請求**

入試課教育文化担当 TEL : 018-889-2507
E-mail: nyushi@jimu.akita-u.ac.jp
https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_admission.html



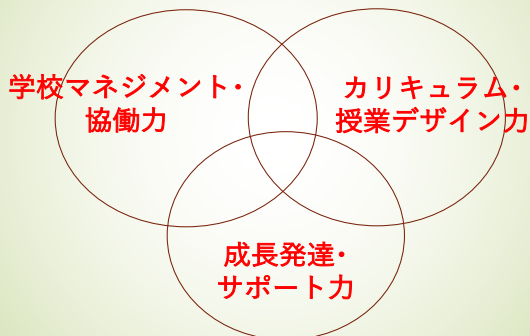
秋田大学教職大学院はどんなところ？



Q 教職大学院は、どのような大学院ですか？

A 教職大学院は、**高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員の養成を目的とした専門職大学院**のことです。全国の教員養成系の国立大学と一部の私立大学に設置されていますが、秋田大学教職大学院は、平成 28 年 4 月にスタートしました。

秋田大学教職大学院で育成する3つの力



Q 秋田大学教職大学院の一番の特徴は何ですか？

A 最大の特徴は、「**理論と実践の往還**」を教育、研究、実習の中心に据えていることです。これを通じて、**学校現場の課題解決、実践知の継承と創造に取り組むことができる教員養成**を目指しています。そのため、秋田大学教職大学院では、秋田の高い学力を中心的に支えてきた経験豊かな実務家教員と、質の高い教員を養成しつつ秋田を含め国内外の教育実践を研究・支援してきた研究者教員が協同して院生の指導にあたっています。

Q 教職大学院には、どのような人が学んでいますか？

A 教職大学院には、学部を卒業してすぐの院生と、現職教員院生がいます。学部卒院生は、本学教育文化学部卒業の人だけでなく、他大学卒業の人もあります。また、学部卒院生の中には、学部 4 年（あるいは大学院 1 年）の時に教員採用試験に合格し、**採用猶予（保留）の制度**を活用して大学院に入学している人もいます。大学院在学中は教員採用試験のことを気にすることなく、研究や実習に集中して取り組んでいます。

Q 教職大学院では、どのようなことが学べますか？

A 秋田大学教職大学院には、**学校マネジメントコース、カリキュラム・授業開発コース、発達教育・特別支援コースの 3 コース**があります。授業科目には、共通科目、コース科目、実践実習系科目などがあります。共通科目には、教育課程編成や教科等指導法、学校経営に関する科目があります。コース科目は、各コースの専門性を深める科目が用意されています。また、教職大学院で重視しているのが実践実習系科目で、10 単位分の実習が必修となっています。

Q 大学院の実習とはどのようなものですか？

A 学部卒院生の実習は、1 年次は附属学校園で、2 年次は公立学校で行います。教科・学習指導とともに、自身の研究テーマに沿った調査データの収集なども行います。

Q 大学院は、授業科目の履修や実習で修了できますか？

A 修了するためには所定の **45 単位を修得**する必要がありますが、その中には**実践研究報告書の作成**があり、審査を受けて合格することが必要です。

Q 大学院を修了すると、どのような免許が取得できますか？

A 所定の単位を修得することで、**教職修士（専門職）**の学位と**専修免許状**が授与されます。

Q 教職大学院は何年で修了できますか？

A 標準年限は 2 年です。なお、**長期履修制度**を活用することで、授業料は 2 年間分のまま、修業年限を 3 年、あるいは 4 年とすることもできます。また、学校マネジメントコースに限っては、一定の要件を満たすことで、修業年限を 1 年とすることができます。





Q 教職大学院は、どれくらいの経費がかかりますか。

A 入学料が 282,000 円（予定額）、授業料が 535,800 円（同）です。教員採用試験に合格して、採用猶予の制度を活用して入学した人は、申請により、入学料相当額の奨学金を受給できます。

Q 教職大学院を修了して、どのような進路に進んでいますか？

A これまでの学部卒院生は、皆さん学校現場で教員として働いています。現職教員院生の修了後は、教頭や主任、教育委員会の指導主事等として、学校や行政における管理的立場やミドルリーダーとして活躍しています。

Q 教員免許がなくても入学できますか？

A 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の一種、または二種の免許状を有する人、あるいは大学卒業時に取得見込みであることが条件です。なお、大学院に入学後、さらなる免許の取得を希望する人は、教職チャレンジプログラムを活用して、学部の授業を履修することができます。その場合、学部の授業料は免除されます。

Q 学部と教職大学院には、つながりがありますか？

A 教職大学院に入学するには、大学院入試を受験して合格する必要がありますが、秋田大学教育文化学部の学生には、教員養成 6 年一貫プログラムが用意されています。学部の 3 年次に内部試験をパスすることで、学部 4 年次に大学院の授業科目を履修することができます。大学院の授業を先行履修することで、入学後の 2 年間は余裕を持ちつつ、研究や実習を行うことができます。

教職大学院の授業体験



教職大学院の授業を体験しよう！

- 期 間 令和 3 年 5 ～ 6 月（具体的な期日は各授業毎に設定する）
- 申込方法 下記の「教職大学院の授業を体験！ 希望票」を記入の上、科目の責任者に申し込んでください。体験期日、見学の形態等は授業ごとに異なりますので、下の希望表を科目責任者の教員に提出し、相談の上、決めてください。なお、科目責任者に連絡が取りにくい場合は、原（教育学研究科）までご連絡ください（018-889-2545, hara@gipc.akita-u.ac.jp）。

3 事後 アンケートへの協力をお願いします。

4 公開授業一覧

No.	授 業 科 目 名	時間割	実施形態	科目責任者
1	個のニーズに応じたカリキュラムの編成	月3,4	対面	谷村 佳則
2	特別活動の理論と実践	月5,6	対面	鈴木 翔
3	生活科・総合的な学習の時間の授業デザインと評価	水1,2	対面	瀬尾 知子
4	秋田の生涯学習の理論と実践*	水1,2	対面	原 義彦
5	秋田の授業力の継承と発展	水5,6	対面	阿部 昇
6	児童生徒指導の理論と実践	水7,8	対面	中野 良樹
7	道徳教育の理論と実践	木3,4	対面	小池 孝範
8	インクルーシブの理念と特別支援教育の推進	木5,6	対面	藤井 慶博 武田 篤
9	教科教育実践の理論と展開	木9,10	対面	田口 瑞穂 長瀬 達也
10	スクールリーダーの役割と課題*	金7,8	対面	鎌田 信

*現職教員院生が中心の科目ですが、体験可能です。

~~~~~ 切り取り ~~~~~

#### 教職大学院の授業を体験！ 希望票

（科目責任者） \_\_\_\_\_ 様

（授業名） \_\_\_\_\_ の体験受講を希望します。  
受講を承認くださいますようお願いいたします。

|                   |       |             |  |
|-------------------|-------|-------------|--|
| 学校名（他大学の場合）、所属・学年 | コース 年 | 学籍番号<br>氏 名 |  |
| 連絡先（メール、または電話）    |       |             |  |

## 教職大学院 1 年間の学びを振り返って

### カリキュラム・授業開発コース

#### 2 年次 佐藤大星

昨年度は新型コロナウイルスの蔓延により、学校現場では従来とは異なった形での学び方をせざるを得なくなりました。教職大学院も例に漏れず、zoom での講義がほとんどでした。zoom での講義は、ルーム機能を用いて話し合うことが多かったのですが、相手の表情を読み取ることが難しく、話し合いにぎこちなさを感じました。今まで不自由なくできていたことができなくなった今、改めて「学び合い」の大切さを実感しています。この苦しい状況においても、教職大学院では一人一人が創意工夫し、より良い学びができるよう活動してきました。その 1 年間を振り返ってみたいと思います。

私は教職大学院で、教師に必要な資質・能力を育成するための見方や考え方を広げることができたと実感しています。授業づくりはもちろんのこと、いじめや不登校の子どもへの対応、学級づくり、保護者対応、ふるさと教育、キャリア教育など私が今まで深く考えたことがなかったことについても、現職の先生方やストマス院生とのグループワークを通して、広く、深く学ぶことができました。

また、私は教職大学院で学ぶことによって、授業をより面白く、より分かりやすくする「引き出し」を増やすことができた実感しています。昨年度は新型コロナウイルスの影響により、講義内で模擬授業をする場面が多くありませんでした。そのかわり、ビデオで様々な先生の授業を見ました。その授業の中には「教師のワザ」が多く詰め込まれており、子どもたちは目を輝かせながら授業を受けていました。私が実習で実際に授業をする場面では、大学院で吸収したワザを子どもの実態に合わせて使うことができました。子どもたちに、

より良い学びを提供できたのではないかと自負しています。

来年度の今頃、私はどんな顔をして教壇に立っ

ているのでしょうか。そこで授業を受けている子どもはどんな顔をしているのでしょうか。「子どもたちのために」を心に、これからも日々、精進して参ります。

## 教職大学院での研究と展望

### 発達教育・特別支援教育コース

#### 1 年次 嶋崎友貴

雨の合間に差し込む日差しや暖かさに、初夏の訪れを感じるこの頃。早いもので、大学院に入学して 2 カ月が過ぎました。本稿では、私が大学院へ進学した動機や入学後の学び、将来の展望についてご紹介します。



私は、3 月まで本学の特別支援教育コースで学修をしておりました。学部時代は、「仲間と一緒に学ぶ」ことへの大切さを学び、このことを通して、自分自身の成長を感じることができました。この充実した本学での学びが、更なる学修への意欲につながり、大学院進学を決め手となりました。

大学院では、大学を卒業して入学する者と、実際の教育現場でキャリアを積んできた現職教員が協同して、日々の研究や講義に取り組みます。それぞれ学校種や研究テーマ（関心事）に違いはありますが、そのような垣根を超え、お互いに意見や経験談などを共有して学修を進めています。本県の学校教育の一層の充実と発展を目指し、新たな提案や視点の創出に向けて、大学院生共々、日々奮闘しております。

私個人の研究としましては、通常学校における特別支援教育に注目し、発達障害児に対する支援の検討に関する研究を進めています。近年、通常学校に対して、特別支援教育のニーズが高まっています。しかし、通常学級ないしは特別支援学級の教員が、必ずしも特別支援教育の専門性があるわけではないため、個のニーズに応えることができず、子どもは困り感を抱えながら過ごさなければならない現状があります。この現状を一朝一夕に解決することは難しいですが、自身の研究や実践を通して、少しずつ特別支援教育の輪が広がることを期待し、取り組んで参ります。

また、大学院修了後は、公立小学校での採用が決まっておりますので、微力ながらも、通常学校における特別支援教育の推進に関する一助となり、貢献する所存です。このことを実現するためにも、「理論と実践の往還」を積み重ねながら自己研鑽に努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



## 大学院心理教育実践専攻で学び、心理専門職としてはばたく

心理教育実践専攻は 2002 年から本格的に心理士養成を始めました。当時、東北地方で最も早く臨床心理士養成第一種指定大学院を取得した大学でした。以来、およそ 20 年にわたり 100 名をゆうに超える心理専門職を社会へ輩出してきました。現在、大学院の教員は 6 名で、昨年 4 月以降に着任したフレッシュな 3 名を加えて気持ちも新たに大学院生の指導にあたっています。

**柴田健 教授：**専門は臨床心理学。秋田県中央児童相談所、弘前大学を経て本学に着任。ブリーフセラピーや家族療法の実践的研究に従事。

**中野良樹 教授：**専門は学習心理学、生理心理学。研究テーマはパズルゲームでの「ひらめき」から小学校生活科の授業研究まで幅広い。

**北島正人 教授：**専門は医療心理臨床。首都圏での病院勤務の経験を生かし、教師のバーンアウトや秋田刑務所での共同研究など実践的課題に取り組む。

**木村久仁子 准教授：**専門は福祉心理臨床。県内児童相談所や福祉施設など公的機関に勤務し、昨年 4 月に着任。福祉現場における「支援者への支援」が研究テーマ。

**綾部直子 講師：**専門は臨床心理学、特に認知行動療法。国立精神・神経医療研究センターから昨年 10 月に着任。睡眠障害の認知行動研究の傍らスクールカウンセラーもこなす。

**侯玥江（ホウ・ユエジャン） 講師：**専門は発達心理学、教育心理学。調査・統計法にも詳しい。生徒の学校適応と不登校に関して学校現場での調査研究を行う。



臨床心理相談室でのカンファレンスの様子

6 名の教員は経歴、専門分野から年齢、出身地までバラエティーに富んでいます。多様な背景をもつ教員が一つのチームとして、大学院生一人一人の個性や興味・関心、志望をふまえた指導にあたっています。授業では幅広い専門領域の基礎から応用まで確かな知識・技能を修得し、一方、県内の医療・福祉機関では長期の実習を行い心理臨床の実践力を高めます。修士論文では手厚い指導のもとに自身の興味・関心を専門研究として追求するだけでなく、学会で発表できる内容と完成度が求められます。確かに、大学院の 2 年間は多くのことに並行して取り組み、多忙な毎日を経験します。しかし、この充実した日々が、必ず社会に出て心理専門職として活躍する土台になるのです。

本専攻の修了生たちは精神科や小児科などの医療機関、教育委員会（スクールカウンセラー）や児童相談所、養護施設などの教育・福祉領域、県警察署や地方自治体の公務員など、幅広い分野で活躍しています。働く場所も首都圏から北海道まで全国各地にわたり、東日本大震災の折に三陸地方の福祉施設で支援と復興に力を尽くした人もいます。専門職として働く長所に、「どこで何を

して働くか」

|      | 月曜日     | 火曜日        | 水曜日               | 木曜日          | 金曜日                 |
|------|---------|------------|-------------------|--------------|---------------------|
| 1・2  | 発達心理学特論 |            | 障害児支援におけるチームアプローチ |              | 臨床心理基礎実習            |
| 3・4  |         |            | 電話実習              |              |                     |
| 5・6  |         | 臨床心理学特論Ⅰ   |                   | 臨床心理査定演習Ⅰ    | 発達障害の事例分析と対応策の検討・評価 |
| 7・8  |         |            | 生徒指導特別演習          |              |                     |
| 9・10 |         | 心理学研究法特別演習 | 研究方法ゼミ（論文指導）      | カンファレンス（月2回） | 教育分野に関する理論と支援の展開    |

● 臨床系の授業は、現場ですぐに役立つ知識を身につけられるよう配慮されています。

● 「心理学研究法特別演習」はパワーポイントやポスター、紙資料による研究のプレゼンテーション技法やその基礎知識、および研究テーマに関連した研究論文の読み込み方を互いに議論しながら学びます。

● 「臨床心理基礎実習Ⅰ」は面接のロールプレイを通して、面接の技法を学びます。また、集中講義では各領域のエキスパートの先生方とディスカッションができます。

● 「カンファレンス」は担当しているケースを検討する場です。教員・院生全員の意見を聞けるので大変参考になります。また 1 年次の後半から臨床心理相談室関連の業務担当が多くなり本格化します。教員の面談に陪席したり実際にケースに入ったりと臨床の腕を磨く機会が多くなります。

修士 1 年生の一週間

2 年生は実習と修士研究が主になります



を自分で決められることがあります。県内外の現場で経験を重ね、地元の自治体に子育て・福祉担当の職員として戻った人、新しい福祉施設の立ち上げに中心的な役割を果たす人、個人で相談室を開設してフリーでスクールカウンセラーなどを請け負う人、多くの修了生が自分の意志でキャリアを高めています。こうした先輩たちが、今、実習先で現役院生の指導に力を貸してくれることは、とても心強くまた誇らしく思います。

#### 心理教育実践専攻 修士2年 富谷 咲和

大学院に入学して早いもので1年が経ちました。大変に感じることもたくさんありますが、その分自分自身の糧となることがたくさんあります。今回は、その中でも、「実習」と「修士研究」について取り上げたいと思います。

初めに、実習についてです。修士1年の秋頃から、実習が本格化し、児童相談所や病院など様々な施設でご指導を頂いています。「百聞は一見に如かず」とよく言いますが、実習の場はまさにこれだと感じています。本や論文、授業などで理論として学んでいたことを、いざ実習の場で応用しようとするのはかなり難しいことでした。「分かっている」だけではなく、分かった上でそれを「どのように生かすのか」が大事であることを痛感しました。そのため、実習中は「実習先の先生方が、どのように理論と実践を結びつけているのか」、また、「自分が先生の立場であったらどうするか」を特に意識して取り組むようにしています。

次に、修士研究についてです。私は現在、「児童福祉施設職員の問題行動の捉え方が子どもへのかかわりに与える影響」というテーマのもと、修士研究を進めています。修了後の進路として児童福祉領域を志望しているため、また修士研究で築き上げた自分なりの理論を臨床の場に生かしていけるよう、このテーマを選びました。修士研究のテーマを決めるにあたって、自分の興味や関心はどこにあるのかを定めるのにはとても苦労しましたが、ゼミの中で先生や先輩、後輩とディスカッションをすることによって、徐々に焦点を絞って行けたのではないかと思います。自分で考えることももちろん大事ですが、それ以上に、人と議論して多様な視点を知ることが修士研究では重要なのではないかと考えています。

最後に、正直に言うと心理教育実践専攻で2年間を過ごすことはとてもハードです。しかし、私は嫌なことでも嬉しいことでも、いかにそれを自分の学びに繋げていくかが問われているのではな

いかと思います。自分自身の中で生まれた疑問を大切に、残りの大学院生活を過ごしていきたいです。

#### 心理教育実践専攻 修士1年 黒木 雪乃

大学院生活をおよそ2ヶ月過ごして感じた、学部生の頃との違いをいくつか紹介したいと思います。

まず、少人数でディスカッションを行い、主体的に自分の考えを伝える機会がとても増えます。学部生の頃は、受講者の多い講義を聴講し、興味関心のあることを個人で調べていましたが、大学院では、講義などで得た知識や技能をクライアントに対してどのように実践すれば効果的かを議論することが重要になります。

次に、多種多様な考えを実感できることです。本大学院では、様々な学派の先生方のご指導を受けることができます。例えば、臨床基礎実習の講義では、心理面接のロールプレイの様子を撮影し、先生方と大学院生で共有・検討をしますが、同じ



大学院生自習室の様子

パーティションを設置し、感染防止対策と  
学習環境の向上を図りました

面接場面であっても、先生から頂けるアドバイスが異なるため、複数の学派の視点から面接に関する知識や技術を学ぶことができます。

さらに、大学院生の数が少ない分、関わりを持つ人々との交流が密になることです。私は内部進学のため、学部の際と比べて環境の変化はあまりないように感じましたが、それでも他大学出身の院生や社会人経験のある方と共に学ぶことができ、多様なバックグラウンドを持つ人々と深い交流や議論ができていると感じます。

最後に、実践を意識した研究活動を継続して行う必要があるということです。4年次の卒業研究では、興味のあるテーマを絞り込んで研究を行い、論文を執筆しました。一方、大学院では、自分の研究が現実の社会でどのように生かせるのかを重視しながら、2年間継続して取り組む必要があります。

大学院での生活は、学部生の頃と比べて課題や実習、学部生の講義のティーチング・アシスタン

トなどやらなければならないことが多く、時間管理が大変であると感じています。一方で、大学院でしか得られない貴重な経験を日々積むことができています。関心のある方は、ぜひ、進路決定の選択肢の一つとして、大学院への進学を検討してみてはいかがでしょうか。

## **秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要第 43 号を発行**

2021 年 3 月、秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要第 43 号が発行されました。ぜひご覧下さい。

[秋田大学学術情報リポジトリ \(nii.ac.jp\)](http://nii.ac.jp)

・地域における継承的アーカイブと学習材としての活用(3)一松代大本営地下壕を事例として一

外池 智

・書くことに関する「言葉による見方・考え方」とその指導法としての「文種換え」の研究(2)

成田雅樹

・遠隔授業によるデザイン領域の実習・演習系授業の教育実践の試み

石井宏一

・コロナ禍における教員養成学部の音楽指導法と学習者の意識

爲我井壽一

・「食・食育を生物学から考えるー自ら食材を解剖・観察するー」一教員免許状更新講習 in 秋田大学ー

石井照久

・論理的思考力を育むための授業開発

田口瑞穂

・重複障害教育課程における教科別指導の実践例ー肢体不自由特別支援学校授業研究会の指導助言を通してー

谷村佳則

・総合的な学習の時間における教師の指導性の分析ー子どもの「形成的」省察を促す教師の出方ー

細川和仁・菅野宣衛

・障害者の社会参加に向けた移行支援の取り組みの現状と課題：江戸川区立障害者就労支援センターの取り組みから

鈴木大樹・前原和明

・秋田県の高校情報科担当教員の実情と新教科「情報Ⅰ」に対する意識について

林 良雄

・学校の変革を目指す校内研究体制の構築に関する研究ープロジェクトチームによるミドル・アップダウン・マネジメントを通してー

鎧 基倫・鎌田 信

・特別支援学校に在籍する聴覚重複障害児の現状とその支援の充実に向けてー秋田県内の実態調査と支援の充実を図るための教員研修の在り方

齊藤 徹・武田 篤・新井敏彦

・校内研修における教員の深い学びに関する一考察

田仲誠祐・伊藤紘成

・入院により特別支援学校に転学した児童生徒の復学支援システムに関する検討

佐藤忠浩・藤井慶博

・求められる教員養成の新たな視点ー教員養成段階における「秋田県教員育成指標」の活用ー

三浦 亨・武田 篤・鎌田 信・細川和仁

・周囲との関係や内面に着目した子ども理解の在り方に関する研究

今野菜穂子・鈴木 徹

・機械学習の構成理解を促すための AI アプリプログラミングの授業開発

秋山政樹・花田 守・菅家久貴・本多満正

・不登校傾向児童生徒の自己肯定感向上を目指した社会教育からのアプローチー秋田県立少年自然の家における「ふれあいキャンプ」の実践からー

川田貴之・小池孝範





## 秋田大学教育文化学部紀要第 76 集を発行

2021 年 3 月、秋田大学教育文化学部紀要第 76 集が発行されました。ぜひご覧下さい。

### 【教育科学】

#### 秋田大学学術情報リポジトリ ([nii.ac.jp](http://nii.ac.jp))

- ・学校におけるインクルーシブ教育システム構築の検討ー合理的配慮と基礎的環境整備の充実に向けた取組を通してー 池田和馬・藤井 博
- ・戦前の日本におけるオーケストラ指揮の基礎的技法と知識に関する学習内容ー『フェッチ先生講義録』からー 石原慎司
- ・理科における「見方・考え方」を働かせるための授業改善に関する一考察ー全国学力・学習状況調査における秋田県の調査結果を踏まえてー 櫻庭直美・鎌田 信・秋元卓也
- ・東日本大震災から 10 年を経た教育復興の状況に関する考察ー新自由主義的復興施策と地域・学校の現状からー 佐藤修司
- ・戦争体験「語り」の継承とアーカイブ (8)ー広島市「被爆体験伝承者」・長崎市「交流証言者」を事例としてー 外池 智
- ・ICT 活用による病気療養児の前籍校との交流及び共同学習の成果と課題 藤井慶博・佐藤忠浩
- ・An Examination of Guidelines to Promote the Implementation of Vocational: Assessment in Employment-related Disability Welfare Service Agencies MAEBARA Kazuaki
- ・フランスの中等音楽教員採用試験「音楽と芸術の教養」ー2011 年以降の枠組みと出題方法についてー 吉澤恭子

### 【人文科学・社会科学】

#### 秋田大学学術情報リポジトリ ([nii.ac.jp](http://nii.ac.jp))

- ・新たな時代のシティズンシップーポスト・シティズンシップへ向けて 石沢真貴
- ・CCRC のまちなか展開の可能性と課題ー「クロッセ秋田」の事例からー 臼木智昭・伊藤慎一
- ・言語使用の動態ー揺れが見られる現象の世代差に即してー 大橋純一
- ・エルヴィン・シュトラウスにおける空間的なものの諸形態ー色と音をめぐって、風景へ向けてー 小倉拓也
- ・王政復古期におけるシェイクスピア受容ーウィリアム・ダヴェナントの改作をめぐってー 佐々木和貴
- ・アポリネールの散文作品における「映画と蓄音機」をめぐって 辻野稔哉

- ・映画における「民衆蜂起」の表象ー映画『ジョーカー』が夢見たものー 中尾信一
- ・現代ロシアにおけるヴィクトル・ツォイのイメージについて 長谷川 章
- ・Medicine and Money: Advertising for Malaria Medicines in the Final Years of the Netherlands East Indies William Bradley Horton
- ・Morphological and Syntactic Labels: Dynamic Labeling of Fuzzy Predicates in a Head-final Language HOSHI, Hiroto
- ・東北地域ブランド総選挙への参加を通じた地域ブランド教育の効果 益満 環
- ・公共空間における信教の自由ーイスラーム教徒の司法修習生のスカーフ着用に関するドイツの判例の検討を中心として 棟久 敬
- ・子どもの二言語発達と言語継承の問題: 国際結婚による台湾の教育に対する影響 黄 琬茜・山名裕子

### 【自然科学】

#### 秋田大学学術情報リポジトリ ([nii.ac.jp](http://nii.ac.jp))

- ・秋田県に自生する山菜のポリフェノール含量とシロザの生理機能の解析 池本 敦, 藤本恵子
- ・秋田県初記録種 (ジーカイメン) を含む八郎潟の淡水カイメンについて 石井照久
- ・micro:bit を利用したロボットカーの比較検討と新バージョンの特徴について 林 良雄, 成田堅悦
- ・男子 110m ハードル走におけるハードリング動作に課題を持つ競技者へのコーチングに関する事例研究ー14.73 秒から 14.07 秒まで記録を短縮した大学 1 年生のトレーニング事例ー 松下翔一





## 新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み

### 【全国】

- 5/1：全国の重症者数が1000人を超えて1020人となる。東京都の新規感染者数が1000人を超えて1050人となり、秋田県は25人で最高を記録。
- 5/3：秋田県の累計患者数が500人を超えて506人となる。4/23に400人を超えて402人となっていた。10日ほどで100人増加。300人から400人へは20日ほどかかっていた。
- 5/5：全国の重症者数が初めて1100人を超えて1114人となる。1/27の1043人を超えて、5/2には1050人となっていた。
- 5/6：国内のワクチン接種が1回目と2回目を合計して累計400万回を超える。2回目接種が累計100万回を超える。
- 5/7：東京、大阪、京都、兵庫の4都府県に11日まで発令中の緊急事態宣言について、5/31まで延長。感染が拡大している愛知、福岡両県も5/12から対象に追加。  
埼玉、千葉、神奈川、愛媛、沖縄の5県について現在適用中のまん延防止措置を5/31まで継続。5/9から適用対象に新たに北海道、岐阜、三重の3道県を加える。宮城県への措置は5/11までで解除。  
全国の新規感染者数が再び6000人を超えて6057人となる。全国の1日の死者数が2/10の121人を超えて、148人となる。
- 5/8：全国の新規感染者数が再び7000人を超えて7251人となり、東京都は1100人を超えて1121人となる。
- 5/9：秋田県の新型コロナウイルス感染警戒レベルが4（秋田市に限り）に引き上げられる。
- 5/10：秋田県の累計患者数が600人を超えて601人となる。
- 5/12：国内のワクチン接種が1回目と2回目を合計して累計500万回を超える。
- 5/13：全国の重症者数が1200人を超えて1214人となる。
- 5/14：北海道、岡山、広島の3道県を対象に、5/16から5/31まで緊急事態宣言。群馬、石川、熊本の3県に「まん延防止等重点措置」を5/16から6/13まで追加で適用。
- 5/15：国内のワクチン接種が1回目と2回目を合計して累計600万回を超える。
- 5/17：国内のワクチン接種で2回目接種が累計200万回を超える。
- 5/18：秋田県の累計患者数が700人を超えて711人となる。

\*一部不明・不正確な箇所があります

- 国内のワクチン接種が1回目と2回目を合計して累計700万回を超える。
- 5/21：緊急事態宣言を沖縄に適用決定、期間は5/23から6/20まで。愛媛県のまん延防止措置は5/22までとし前倒しで解除決定。  
国内のワクチン接種が1回目と2回目を合計して累計800万回を超える。
- 5/22：全国の重症者数が1300人を超えて1303人となる。
- 5/24：国内のワクチン接種が1回目と2回目を合計して累計900万回を超える。
- 5/25：国内のワクチン接種が1回目と2回目を合計して累計1000万回を超える。
- 5/26：全国の重症者数が1400人を超えて1413人となる。
- 5/27：国内のワクチン接種が1回目と2回目を合計して累計1100万回を超える。2回目接種が累計300万回を超える。
- 5/28：北海道、東京、愛知、大阪、兵庫、京都、岡山、広島、福岡の9都道府県に5/31を期限に発令している緊急事態宣言を6/20まで延長し、沖縄に揃える。まんえん防止等重点措置が適用されている8県のうち、埼玉、千葉、神奈川、岐阜、三重の5県も期限を6/20に延長し、6/13が期限の群馬、石川、熊本の3県に関しては変更しない。

### 【秋田大学】

- 5/11：5/9付けで秋田県の新型コロナウイルス感染警戒レベルが4（秋田市に限り）に引き上げられたことに伴い、学生、教職員に対する感染予防策として、従来のものに「不織布タイプのマスク着用」を追加し、また、「不要不急の移動を控えるように・・・」から「移動は行わないように強く要請します。」という表現に変更。
- 5/18：これまで事務職員並びに技術職員等の在宅勤務の割合の目標を2割程度としていたものを当面の間3割から5割程度（業務内容による）の範囲で実施。

### 【学部・研究科】

- 5/13：教職大学院説明会をオンラインで開催。

### 【附属学校園】

- 5/26：附属学校園PTA連絡協議会をZoomで開催。

## 2021年度日本学術振興会科学研究費の新規採択状況

以下の9件が新規に採択されました。

| 期間    | 研究種目     | 氏名     | 職名   | 研究課題名                                    | 経費合計      |
|-------|----------|--------|------|------------------------------------------|-----------|
| R3-R5 | 基盤研究(C)  | 中村 寿   | 講師   | ユダヤ主義とドイツ文学—『自衛—独立ユダヤ週刊新聞』とマックス・ブロートを中心に | 2,600,000 |
| R3-R6 | 基盤研究(C)  | 小池 孝範  | 准教授  | 現代日本の道德観に対する仏教教育の影響の再検討—仏教の近代化と教化の視点から—  | 3,250,000 |
| R3-R6 | 基盤研究(C)  | 田仲 誠祐  | 教授   | 義務教育学校設立期における小学校文化と中学校文化の融合と創発に関する研究     | 2,990,000 |
| R3-R5 | 基盤研究(C)  | 山口 祥司  | 准教授  | 場の量子論と三次元トポロジーの相互作用から導出される不変量の恒等式の理解     | 3,380,000 |
| R3-R5 | 若手研究     | 原田 勇希  | 講師   | 抑制モデルに基づく個人差に着目した科学概念への変容に関する実証的研究       | 3,640,000 |
| R3-R5 | 若手研究     | 渡邊 和仁  | 講師   | 暑熱下運動時における循環動態制御メカニズムの解明とその応用基盤の構築       | 4,550,000 |
| R3-R6 | 若手研究     | 高橋 環太郎 | 講師   | 島嶼地域の社会経済特性と観光施設の立地分析                    | 2,470,000 |
| R3    | 奨励研究     | 綿谷 健佑  | 技術職員 | 運動部活動における遠隔指導の実践とその効果                    | 450,000   |
| R3-R4 | 特別研究員奨励費 | 山名 裕子  | 教授   | 国際結婚家庭で生じた母語文化の継承問題と教育・発達の支援課題           | 1,700,000 |

## 秋田大学名誉教授 肥田 登 先生が瑞宝中綬章を受章

2021年春の叙勲において、秋田大学名誉教授肥田登先生が、教育研究功労者として瑞宝中綬章を受章されました。この度の受章を心よりお慶び申し上げます。

先生は1941年生まれの長野県出身で、1966年に東京教育大学を卒業、1971年に同大学院を修了し、理学博士(東京教育大学)を取得しています。1971年から東京教育大学助手、1973年から本学部で、講師、助教授、教授を務め、2007年から名誉教授とされています。

学会は、日本地下水学会、韓国地下水学会、日本水文科学会、日本地理学会などに所属し、評議員、理事などを歴任されました。ほ場整備事業と地下水保全、地下水人工涵養、米国・ロッキー山脈の水環境調査、ブラジル・アマゾン河の水循環、水資源、

水環境調査、国土基盤・環境保全対策事業、ヨーロッパアルプス水域の水環境調査、西独水資源調査などの研究に取り組まれてきました。



### 発行 秋田大学教育文化学部／教育学研究科

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなおと」バックナンバー⇒[http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu\\_magazin.html](http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html)

教職大学院通信「暁鐘の音(かねのね)」⇒[http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate\\_magazin.html](http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html)

\* 誌名「みなおと」の由来である秋田県女子師範学校校歌(1910年制作)を聴くことができます。

[http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu\\_symbol.html](http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html) をご覧ください。